

前提(背景)

(資料編 p.29)

(1) 2040年ごろまでの社会構造の変化

人口の減少、持続的に発展する社会の実現、デジタル・トランスフォーメーションの進展

(2) 千葉市図書館の現状と課題

5つの視点(「知」の集積、「知」の活用、こどもの読書環境、サービス、運営基盤*)で現状と課題を整理
※市内に整備される千葉県の新たな中央図書館の機能を踏まえた、二重行政解消の観点からの機能分担を含む。

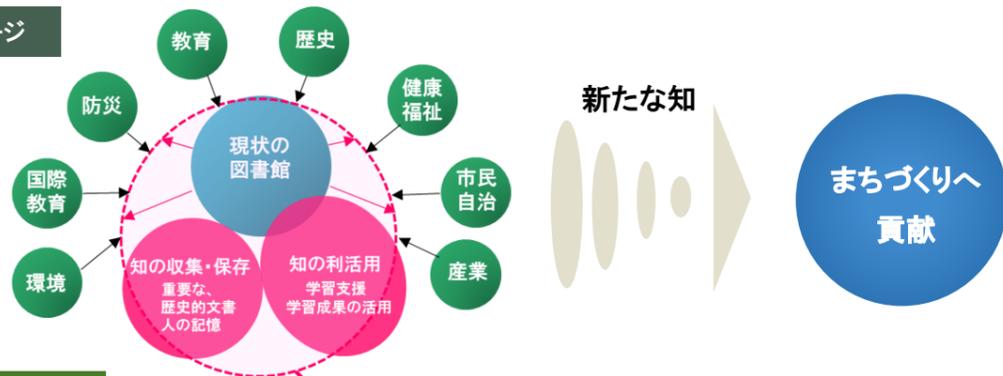
1 基本理念・図書館の目指すべき将来像

(本編 p.7)

基本理念

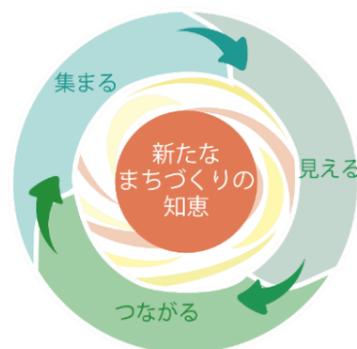
地域における「知の拠点」として、果たすべき役割を追求し、多くの市民に様々な「知の体験」を提供することを通じて、心豊かな市民生活の実現と千葉市の持続可能な発展に貢献する

イメージ



将来像

知の循環をつくり、未来へつなぐ知を生み出す「知の拠点」



みんなの「知」が
集まる

市民がまちづくりなどの活動などから得られた、将来のまちづくりの課題を解決する「知」が集まります

みんなの「知」が
見える

集められた「知」は、「知の拠点」から発信され、誰もがアクセスできます

みんなの「知」が
つながる

市民、学校、企業、団体、あらゆる主体の「知」がつながり、相互理解や新たな「知」が生み出されます

「知の拠点」として果たすべき役割
市民の知的好奇心を刺激し、ワクワクする図書館

2 基本目標と施策展開の柱

(本編 p.10)

基本目標1 特長のある「知の拠点」の実現

- (1) 未来へつなぐ「知」の収集・保存、利活用の促進
- (2) 知をつなげるプラットフォームなどの構築
(多様な主体による知の創出・活用)
- (3) 未来を担う子どもたちの読書環境の充実

基本目標2 新たな時代に適応する運営の実現

- (1) 誰もが利用しやすいサービス環境の実現
- (2) 新たな「知の拠点」づくりに向けた運営基盤の再構築

3 主な施策展開の方向性

(本編 p.13)

基本目標1 特長のある「知の拠点」の実現

(1) 未来へつなぐ「知」の収集・保存、利活用の促進 ※ ●は重点事業

- 未来へつなぐ「知」のアーカイブ計画の作成とインタビューなどによる「知」の収集、デジタル化と提供プラットフォームの構築(「知」の見える化)
- 千葉市の歴史的文書の整理・保存など
- 未来へつなぐ「知」の発掘などに関する市民協働体制の構築

(2) 知をつなげるプラットフォームなどの構築

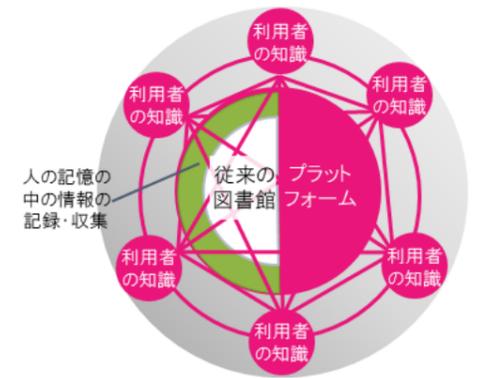
(多様な主体による知の創出・活用)

- SNSを活用した知識の交流を促す仕組みの構築
- 学びや調査研究を支援する知的な交流の場の提供
- 市民と知識、知識と知識をつなぐ活動の推進
- 生涯学習センター・公民館等との連携・協力の強化

(3) 未来を担う子どもたちの読書環境の充実

- こども読書活動推進計画の策定
- こどもたちが利用しやすい読書環境の整備・充実
- 学校・学校図書館との連携・協力の推進

知識の交流イメージ



基本目標2 新たな時代に適応する運営の実現

(1) 誰もが利用しやすいサービス環境の実現

- 利便性の高い場所への図書の取次を行う窓口や返却ポストなどの設置
- 開館日・開館時間の最適化
[利用需要に応じ、民間機能を活用した図書の取次を行う窓口などの設置]
- 障害のある市民や外国籍の市民など誰もが利用しやすい環境の充実
- 自動貸出機などによる貸出サービスのセルフ化

(2) 新たな「知の拠点」づくりに向けた運営基盤の再構築

- 中央図書館の機能強化
[特長のある知の拠点の中心施設としての機能整備 (ミーティングルーム等の整備など)]
- 地区図書館・地区図書館分館の再編
[一部地区図書館は特定分野の専門的な資料を揃えた図書館に再編、地区図書館分館のサービスポイント化]
- 図書資料等の保存・物流機能の一元化
[保管機能と物流機能を一元的に担う新たな拠点の整備と運営の民間機能の活用]
- 図書館施設の老朽化の対応
[土気図書室、白旗分館、若葉図書館など老朽化施設の再整備 (複合化、拠点性のある商業施設の活用等)]
- 窓口運営業務の民間機能の活用
[施設の再整備後の窓口運営業務の民間委託化]

4 ビジョンの実現に向けて

(本編 p.26)

(1) 基本的な考え方

○図書館職員の意識変革 ○柔軟・即応的に挑戦する組織への変革 ○選択と集中による経営改革の推進

(2) 推進体制

(3) ビジョンの検証・見直し およそ5年ごと

5 基本目標達成後のイメージ

